

# 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより

第140号（26年度）

### 平成26年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館部会小中学校図書館部会 副部会長 長野市立城東小学校 小林洋子

本年度の小中部会は、昨年度に引き続き「豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭と学校司書との緊密な連携による学習・情報センター～」をテーマに取り組んで参りました。

第64回長野県図書館大会では、深く澄み渡る晩秋の一日、行政と一体となって図書館教育を推進している茅野市で行われました。講演会では、金田一秀穂先生から、ご自身の人生に関わった十冊の本を紹介していただきながら、言霊にも通じる言葉のもつ命にふれるようなお話をお聞きし、改めて読書の魅力について考えさせられました。寄せられた感想の中に「人と人とのつながりがあって読書がある。新しい分野を知るために、誰かの水先案内人となるべく自分自身が精進していきたい」というものがあり、物語だけではなく様々な興味関心をもっている児童生徒に開かれた図書館運営について考えさせられた講演となりました。

午後の研究部会では、「司書教諭の仕事と役割」「司書教諭と学校司書の二人三脚」「司書の立場からの読書支援」「図書館運営のあり方」「読書指導のあり方」の分科会の準備と運営にあたってまいりました。特に「司書の立場からの読書支援」の分科会では茅野市の学校司書の方々にも準備段階から関わっていただき、大変充実した分科会にさせていただきました。どの分科会でも、確かな実践に裏付けられたレポート発表や読み聞かせ、ワークショップや意見交換等、参加者の皆様の熱気が感じられるものとなりました。

課題として、司書教諭については、任命は受けたものの、持ち時数等への配慮はほとんどなされておらず、実際の仕事に結びついていないことも明らかになりました。また、学校司書の校内における連携の難しさも話題となりました。司書教諭及び学校司書を機能させていくためには、管理職の図書館教育に対する理解と支援がないと厳しい現状であることも浮き彫りにされました。これは、県下各地で共通した大きな課題でもあります。

そのような中、次年度からは学校図書館法の学校司書について以下のように改正されます。

第六条 学校には前条第一項の司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図り児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（自校において「学校司書」という）を於くように努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、学校司書の資質の向上を図るため、研修の実施その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

今後、学校司書ならびに司書教諭が抱えている問題点について、小中学校図書館部会としても県内の動向を把握しながら、上記第六条の「学校図書館の運営の改善及び向上を図り児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資する」べく、検討していく必要を感じています。

また、各地区学校図書館大会は、北信地区が更埴支部、東信地区が上小支部、中信地区が松本支部の計画により実施されました。全国学校図書館大会が山梨県で行われました。図書館が学校教育の中核的な役割を担う場としてのあり方について、実践を通して今後も研究を重ねていくことを期待しています。

読書感想文及び読書感想がコンクールの作品募集におきましては、応募数が昨年より減りましたが、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。長野県課題図書購読数の購読数も昨年度より減ったという報告を受けました。購入募集の時期がゴールデンウィーク明けになり、例年より遅かったことが一つの理由として考えられています。

最後になりましたが、本年度長野県図書館協会小中学校部会の諸活動にご協力頂きました皆様に御礼申し上げますと共に、来年度小諸市で行われる第65回長野県図書館大会へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

## 支部だより

### 飯水支部

飯水支部代表 飯山市立泉台小学校 吉越邦榮

飯水支部は、小学校10校、中学校3校、県立養護学校1校、公共図書館2館（飯山市・栄村）で構成されています。飯山市では市費の図書館司書が各小中学校に配置（一部兼務）され、日常的に図書館の環境整備を行い、子どもの読書推進のための活動を進めています。

#### 1 事業の概要

##### (1) 長野県図書館協会飯水支部総会

- ・日時：7月10日（木） 理事会：午後3時15分から 総会：午後4時から
- ・内容：今年度役員及び組織の承認、前年度事業・決算報告、今年度事業計画・予算承認  
各部会（事業推進部会・読書推進広報部会）、部会報告

##### (2) 第37回長野県読書感想文コンクール募集と支部審査

- ・飯水支部審査会：9月12日（金） 飯山市公民館
- ・応募総数：70点（小学校47点・中学校23点） 県送付代表作品21点

##### (3) 第64回長野県図書館大会 <参加者9名>

- ・期日会場：11月8日（土） 茅野市立永明中学校・茅野市民会館
- ・レポート発表：第8分科会「読書指導のあり方」岸枝里教諭（栄村立栄中学校）

##### (4) 北信地区図書館教育研究会への参加

- ・期日：11月18日（火）
- ・会場：千曲市立治田小学校 千曲市立更埴西中学校

##### (5) 図書館講習会 <参加者21名>

- ・日時：11月28日（金）午後3時30分から  
飯山市公民館
- ・講師：寺島妙子先生（中野市読書指導員）
- ・テーマ：「本と子どもをつなぐために」



## 2 活動を振り返って

- (1) 重要になっている学校図書館や司書の役割を鑑み、それぞれが望ましい研修を重ね、子どもの学力向上・豊かな人間性の育成に資する図書館運営の必要性を強く感じました。
- (2) 図書館講習会では、寺島先生は「子どもが本好きになるか否かは、絵本の中で味わった楽しみの量による」ので「読み聞かせは選書に始まり選書に終わる」ということを、たくさんの本を読み聞かせで紹介しながら参加者に問いかけられました。寺島先生の経験の広さ深さと読み聞かせに対する揺るがない考えに圧倒され、充実した講習会になりました。

## 松本支部

松本支部代表 波田小学校 黒澤 増博

松本支部は、小学校29校と中学校21校、中央図書館で構成されています。そして、「よりよい図書館教育並びに図書館の管理・運営のために、調査・研究・研修を行い、各校の読書指導の充実および図書館運営のあり方を究明する」ことを目標に活動をすすめてきました。

### 1 活動内容

- (1) 総会 6月20日(金) (松本市教育文化センター)
- (2) 委員会
  - ① 図書館運営実態調査委員会
    - ・ 図書館運営、図書館教育についての調査・研究
    - ・ 各校の図書館運営の現状のまとめ
    - ・ 各校の研究テーマ、運営上の問題点についての協議
  - ② 企画運営委員会
    - ・ 図書館教育に関する講演会、講習会の企画と運営
    - ・ 講演会を10月20日(月)に実施  
演題 「読書は子どもの未来をつくる」 (松本市教育文化センター)  
講師 松川村図書館長 棟田聖子 先生
  - ③ 読書感想文委員会
    - ・ 第37回長野県読書感想文コンクールへの参加と応募
    - ・ 読書感想画コンクールの連絡
- (3) その他
  - ① 推薦図書・課題図書選定委員の派遣と図書購入依頼
  - ② 第64回県図書館大会(茅野市)への参加
  - ③ 松本市小中学校図書館司書の会との連携



### 2 中信地区図書館大会

- (1) 10月31日(金)に松本市立 波田小学校と波田中学校で開催
  - ・ 小学校へは42名、中学校へは60名が参加
- (2) 公開授業
  - ・ 小学校 国語 「言葉さがしの旅をしよう」 5学年
  - ・ 中学校 英語 「Unit 5」 3学年
- (3) 講演会
  - ・ 演題 「科学の本から広がる世界」
  - ・ 講師 子どもと科学をつなぐ会代表 代田みち子 先生

## 図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

### 「図書館ステップアップ講座研修」に参加して

長野市立裾花小学校 市川さゆり

学校図書館で働きはじめて 10 年、司書の資格も持っているが、だからといってスムーズに仕事をこなしているわけではない。悩むことの多い毎日。だからこそ、研修の場は貴重だ。

「法制化で学校司書の役割はどうなるのか？」という牛山圭吾先生の講義から始まった。学校図書館の機能と司書の役割について改めて学ぶことができた。法的に位置づけられたとはいえ、自分の立場が安泰になるわけではない。むしろ、より高いハードルが目の前に出現したのだと考えるべきなのかもしれない。

牧野優子先生の実践報告では、魅力ある図書館、役立つ図書館をつくりあげるためのヒントをたくさんいただいた。

学びの場は、自分を奮い立たせる場。またがんばろうと気合を入れた。たぶん悩みは尽きないのだろうけれど…。



### ステップアップ研修に参加して

諏訪市立高島小学校 伊藤 知恵子

読み聞かせの前にわらべ歌や手遊びで温かい雰囲気をつくりたいと思い、読書アドバイザー堀内京子先生のワークショップ「わらべ歌であそぼう！」の講座に参加しました。

「もちっこやいて」というわらべ歌（手遊び歌）では、焼くものを「もち」以外（たとえば魚の名前）にして 1 人ずつ歌っていきます。他の人と同じことを言わない、という事で、自分の番が来るのをドキドキしながら待つのですが、言うつもりだった魚を先に言われてつい「あ〜」と声が出たり、笑いが起きたりと、頭も手も心も使って楽しみました。他には、ペアの人の頬をつつくわらべ歌、椅子に座り足を開いたり閉じたりする「中、中、外」など、赤ちゃんから高齢者まで楽しめるものをたくさん教えていただきました。参加者それぞれ自分が関わっている保育園・学校図書館・公共図書館・福祉施設などですぐに行える実践的な講座でした。これからも、わらべ歌で子どもたちと温かい触れ合いをしていきたいと思えます。

## 読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

長野市立松代小学校 松下 寿

平成26年度、第37回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：347校      ◇応募作品数：5691編

◇県入選（県応募）作品数：571編      ◇県入賞作品数：230編

◇中央審査会応募作品数：8編      ※小・中合計数で表示

応募校数はほぼ横ばい状態。例年と変わらぬ各支部の呼びかけ、各校の取り組みに感謝します。また課題図書を精読し、多くの感想文を審査いただいた支部・県審査委員の先生方に感謝申し上げます。

審査員の先生方から、誤字、脱字、原稿用紙の使い方など 基本的指導事項も含めて審査基準をふまえた書き方の徹底や字数に満たない作品の県審査への応募など課題が指摘されています。

一方、「一つの作品として子どもらしい思いにあふれているもの、自分の体験と思いを重ねて書いているもの、知的にすばらしい考えを巡らせているものと子どもの等身大のほのぼのとした思いにあふれるもの…審査がつかなくなるほどだった」、「しっかりした構成で自分の経験や考えが練られているものがあつた。下書きの段階で丁寧な指導を受けたと思われ、読みやすかつた」などとあたたかな感想も寄せられています。読書によって感動した子どもたちの作品に審査員が感動することも多くありました。今後も関係の皆様読書の啓発、作品応募への働きかけを継続的に行っていただけることをお願いいたします。

また、平成26年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：21校      ◇応募作品数：380点

◇中央コンクール応募作品数：6点      ※小・中合計数で表示

昨年のほぼ倍の作品が応募されました。小学校では学級単位、中学校では部活動制作としての応募がありました。どの作品も読み取つたことを自分なりに想像し個性にあふれた作品が数多くありました。読書感想文同様、作品応募の働きかけを行つていただくようお願いいたします。

応募していただいた児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた皆様に感謝し、来年度も子どもたちにとって両コンクールが豊かな読書生活の一助になることを願つております。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第140号

発行日 平成27年2月27日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 鈴木明）